




共通テーマ 「豊かな言語活動を通じた、小中連携の授業のあり方～英語による発信力の強化を目指して～」

拠点校Ⅰ (天栄村立天栄中学校)	実践の具体的な内容	取組による成果
	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 多くの情報を吟味・選択し、それに対する自分なりの考えを再構築して表現する場面を多く設定した。</li> <li>□ 「中間指導」や「学び合い」を取り入れ、即興的にやり取りを続ける場面を多く設定した。</li> <li>□ 小中連携して作成したCAN-DOリストを常に携行し、よりよい活用と改善を意識して単元計画に反映させた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 必要な情報を収集し、整理・吟味して自分の考えとして表現する力を身に付けることができた。</li> <li>○ 考えをより高次なものに練り上げ、即興的に表現し合う力を身に付けることができた。</li> <li>○ 小学校との日常的な連携・交流により意識的にCAN-DOリストの活用と改善を継続することができた。</li> </ul>
拠点校Ⅱ (天栄村立広戸小学校)	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ CAN-DOリストを基に「読む」「書く」につながる活動として、どの学年でも楽しみながら学習する教材開発を行った。</li> <li>□ やり取りの視点を設定し、「中間指導」の際、代表児童のやりとりにおいて表現や工夫等を児童が具体的に評価し、参考となるようにした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中学校とお互いの成果と課題を共有しながら、系統性を持たせた授業づくりを行うことができた。</li> <li>○ やり取りの「中間指導」を意図的に取り入れたことで、児童の活動がより主体的になった。</li> </ul>

共通テーマ 「豊かな言語活動を通じた、小中連携の授業のあり方～英語による発信力の強化を目指して～」

協力校 (天栄村立大里小学校)	実践の具体的な内容	取組による成果
	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ QQ English(オンラインでのネイティブとの1対1の英会話授業)を目標に、「話す・聞く」力の育成に努めた。</li> <li>□ CAN-DOリストを活用し、「書くこと」に関する目標をもって取り組ませた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 普段練習してきたことをQQ Englishで試すことで、発信力の強化と英語学習の意欲向上につながった。</li> <li>○ 中学年でアルファベット、高学年で単語レベルで書き写すことができる児童の割合が増えた。</li> </ul>
協力校 (天栄村立牧本小学校)	 <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 授業の導入時にALTとスモールトークを行い、場面や状況を提示することで、児童が学習の見通しをもてるようにした。</li> <li>□ 書く活動の時間を確保するため、ワークシートなどを活用した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高学年は、CAN-DOリストを活用しながら、毎時間振り返りの時間を設け、何ができるようになるかをはっきりとすることができた。</li> <li>○ 毎時間継続して読む・書く活動を取り入れることで、読み・書きへの苦手意識が少なくなってきた。</li> </ul>